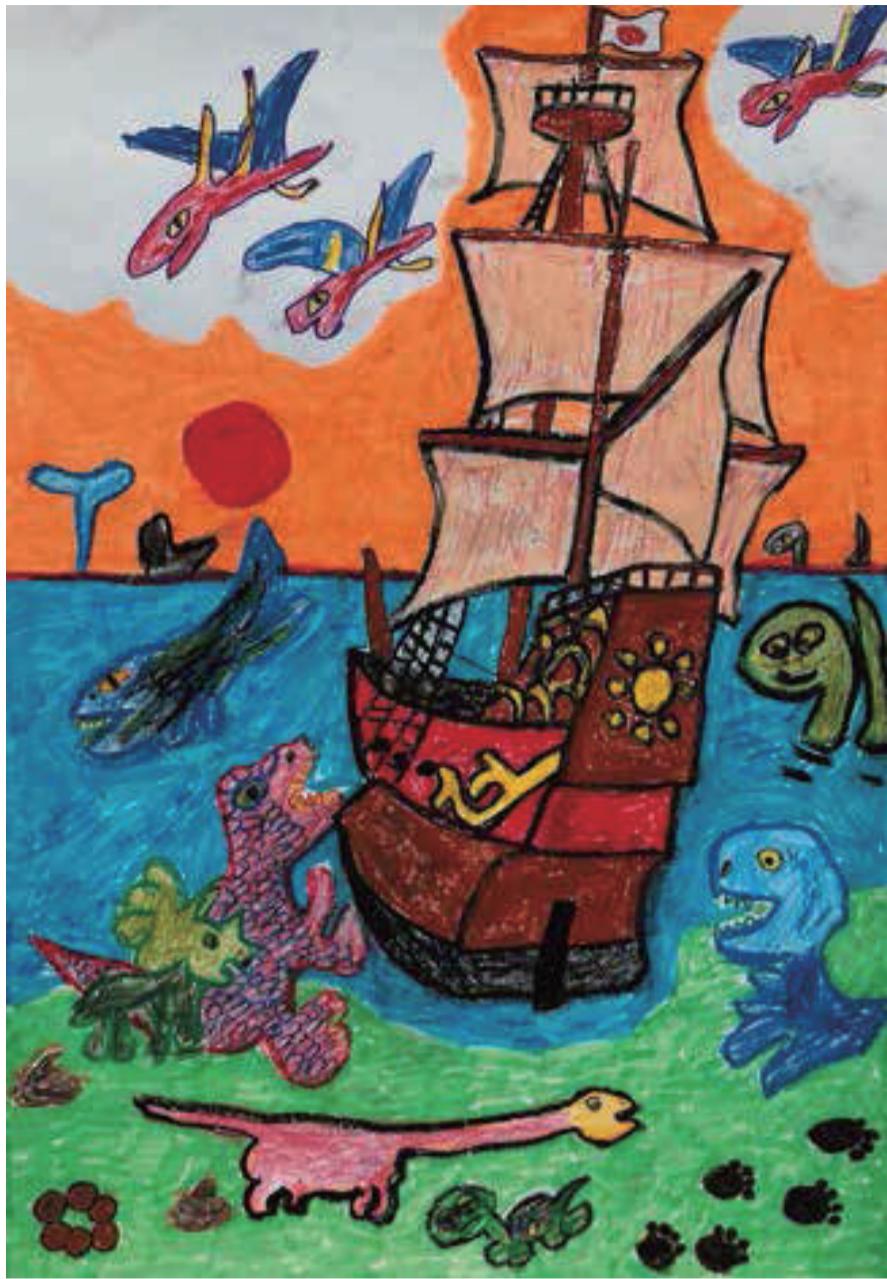


# 絵画部門 小学校低学年の部

最優秀賞



仙台市立東二番丁小学校 2年 佐藤 剛人 (さとうまさと)

## 「きょうりゅうせかいのサンファン」

きょうりゅうがいっぱいいるたいこのせかいにサンファンバウティスタ号がしゅっこうする。

〈講評〉サン・ファン号のまわりに恐竜がいっぱい取り囲んでるっていうのが剛くんのイメージの楽しさが画面からじみ出てきます。船がずっと岸を離れてその向こうの方にも楽しい恐竜がいっぱいいたらいだろなという思いが伝わってきて、すごく楽しい作品に仕上がってます。色どりもいいですね。おもしろいと感じました。もっともっといろんな物語も出てきそうを感じもしますよね。

優秀賞



石巻市立渡波小学校 3年 阿部 佳澄 (あべかすみ)

## 「未来へのかぎあな」

かぎあなからサン・ファン・バウティスタ号の新しい未来を見れるようにしました。

〈講評〉これはアイデアがいいですね。「新しい未来を見るようにした」って書いてありますけども、鍵穴からみたその先にサン・ファン号が浮かんでいたっていうのは、なかなか思いつかないんですけども、うまくかけてましたね。よくお土産で売っているスノードームのようなそんなイメージちゃんと描けてました。配色もすごくいいです。パックとそれからこの船と海の色とか、ずいぶん研究したんじゃないかな。楽しい絵に仕上がってます。

入選



石巻市立中里小学校 2年 石川 澄 (いしかわみお)

## 「おまつりごう」

にぎやかなイメージにしました。

〈講評〉サン・ファン・バウティスタ号を一生懸命考えていったら、こういう楽しい楽しいイメージになったんですね。こういうふうに展開できたというのは瀧さんの才能だと思いますので。またいろいろな絵に挑戦してみてください。サン・ファン号を通じてこれだけ展開ができたというのはすごくこれから楽しみです。

入選



石巻市立蛇田小学校 1年 浅利 蒼生 (あさりそうい)

## 「サンファンと であつたさかなたち」

くじらよりも大きなものが、大きなおとを出してちかづいてきました。さかなたちはすこしあどろいて、とてもよろこびました。

〈講評〉サン・ファン・バウティスタ号の下はこんな風になってるんじゃないかな、という思いで描かれたすごくおもしろい絵です。くじらもよく描けてますし、カニも、タコも、サメもいたりしてね。物語がいっぱい広がってる絵になったと思います。そして蒼生くんもこれからいろんな絵を描いていくと思うんですけど、この気持ちを忘れないようにな。そのもののまわりにどんな情景があるかっていうことを感じるのも大事なことだと思います。

入選



仙台市立通町小学校 2年 間野 智裕 (まのちひろ)

## 「おほしさんとサンファンごう」

よるはおほしさんとあそんでいるのかなとおもいながら書きました。

〈講評〉下の星も流れている。光の海というかそういったところにきらきらっとしているイメージと思います。サン・ファン号をこれだけカラフルにおもしろくしたっていうのは、智裕ちゃんの思いが素直に表現できている絵だと思います。

入選



石巻市立蛇田小学校 3年 浅利 豪仁 (あさりたけと)

## 「終わりのない夢の物語」

目の前には夢のような世界が広がっていて、どこまでも行けそうな気になった。サンファンバウティスタの冒険はまだまだ続く。

〈講評〉ファンタジックな、ファンタスティックというか、サン・ファン・バウティスタ号が長い航海を終えて、アカブルコに到達したイメージだと思います。おもしろいね~。昔っぽい植物があつたりとか、ワニがいたり、サン・ファン・バウティスタ号がその長い時をかけて、このメキシコに着いた時の雰囲気がよく表れていると思います。夢の世界を描いたんじゃないかな。「終わりのない夢の物語」題名通りだと思います。

# 絵画部門 小学校高学年の部

最優秀賞



宮城教育大学附属小学校 4年 間野 智遙 (まの ちはる)

## 「みんなの楽しいサン・ファン号」

サン・ファン・バウティスタ号でみんながパーティーをしているようすをかきました。私もむすび丸とつりをしておいしい魚を食べたいな。

〈講評〉この絵は楽しい楽しい楽しい!楽しさいっぱいのサン・ファン号。智遙ちゃんはこういうふうに感じているんだろうね。その気持ちがほんとよく表現されています。虹にのったサン・ファン号。団体で泳いでいく魚たち、そういったものが夢いっぱいに描かれていて楽しい作品。そして、形もよくとらえてますし、見ていて楽しくなる作品で、最優秀賞になりました。おめでとう。

優秀賞



石巻市立北上小学校 4年 今野 凜玖 (こんの りく)

## 「宇宙に飛び出すサン・ファン号」

3千年後の宇宙では、サンファン号も宇宙旅行を楽しめます。®はワープできるバッヂです。ぼくは、絵をぬる時「赤、青、黄、」の3色だけで色を作りぬりました。

〈講評〉サン・ファン号をそだ!宇宙に持つていこう、宇宙に飛ばそう、といった思いで描かれたんだと思います。UFOとかいっぱい飛んでますけども、やっぱり船がもっているイメージをこれだけ広げられるというのがすばらしいですね。私たちは地球に住んでいるけど、地球は宇宙に浮かんでいるわけですから。そこを飛び出して宇宙旅行をするサン・ファン号。よくここまでまとめたなと思います。たくさんいろんなドラマがあることでしょう。それを聞いてみたいなと思います。

入選



大崎市立鹿島台小学校 4年

藤原 創 (ふじわら そう)

## 「秋のサンファン号」

秋の思い出の中を泳ぐサンファン号の勇姿を描きました。消しゴムを使わないでつながっていく技法を使って描きました。

〈講評〉鉛筆で描いてあるんですね。おもしろいのは「秋のサンファン号」ということで秋の大収穫の中でサン・ファン号も描いてあるんですが、これまた面白い発想で、本当に大好きな絵です。その中に大根があったり、それから芋があったり、よくぞこんなにイメージを含ませることができたんだなということで感心しました。

入選



石巻市立蛇田小学校 6年

高橋 優奈 (たかはし ゆうな)

## 「常長が未来につないだバウティスタ号」

世界地図でローマと石巻を表してみました。全体的に色のぬり方にこだわって、特に海は時間かけて表現しました。最後にスパッタリングで明るめにぬってみました。

〈講評〉サン・ファン・バウティスタ号の距離的な意味といったものを感じさせる絵に仕上がっています。額縁の中におさまっていて、いろんな立ち寄った国で、こんなことがあったんじゃないかなということを、いろいろ考えながら描かれた絵だと思います。サン・ファン・バウティスタ号もなかなかよく描けていますね。非常におもしろい仕上がりになっています。

入選



石巻市立渡波小学校 5年

古川 寧々 (ふるかわ ねね)

## 「希望の道」

サンファン号は、希望、チャレンジする大切さを伝えてくれるシンボルだと思います。希望の道をかがやく光と星で表現し、400年というお祝いで、“たい”も海から出てきました。

〈講評〉バックに描かれている海の波の絵、その波の上に乗っているピンクがかったオレンジの魚たち、これがまたかわいいね。デザイン的に処理されてますけども。希望の道ということで、サン・ファン号が行った跡にはいろんな花が咲くんだよ、ということを象徴的に描かれているんだなと思います。日本のデザイン力というのはすごいんですよ。江戸時代のものなんかいっぱい見るところに出会えます。非常におもしろい絵に仕上がってます。魚がかわいい。

入選



宮城教育大学附属小学校 5年

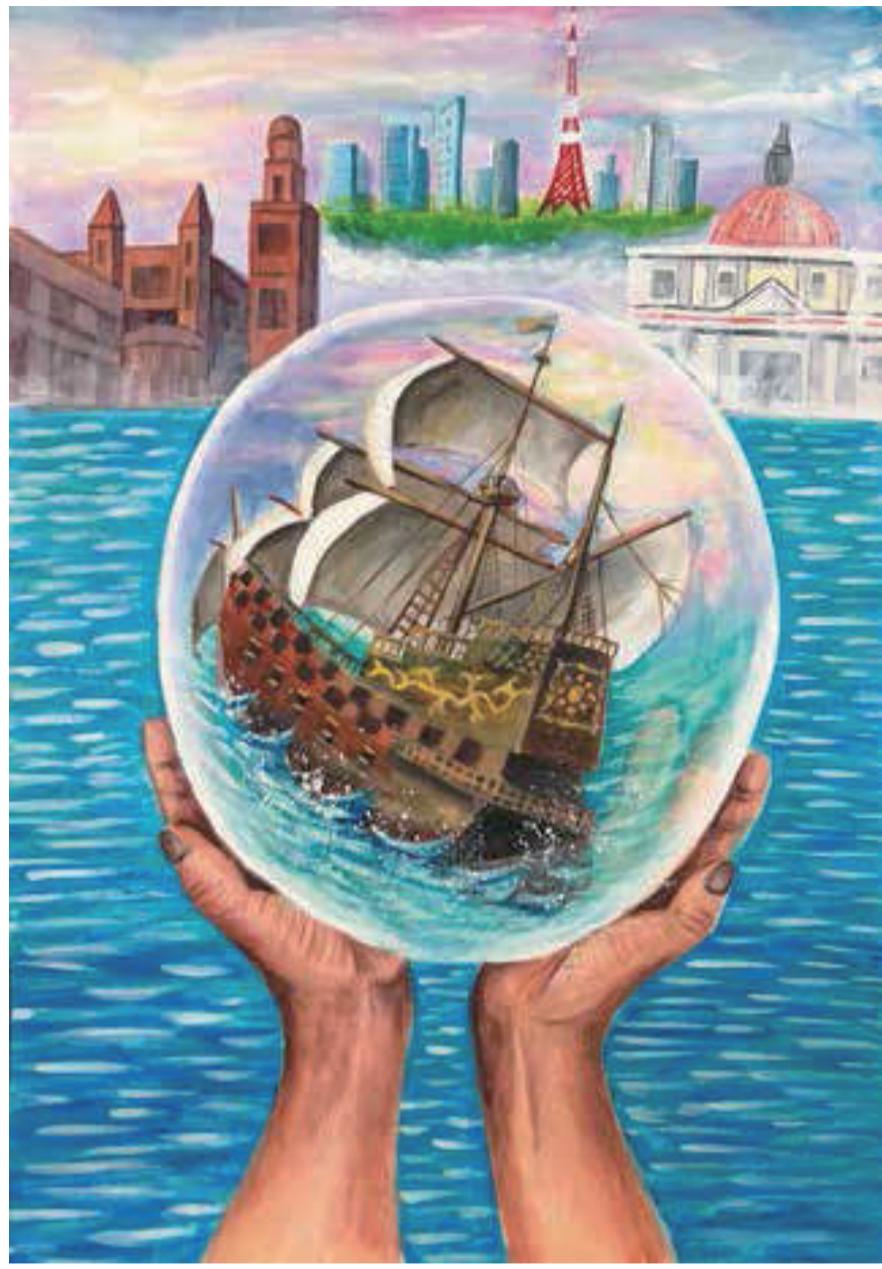
熊谷 明日香 (くまがい あすか)

## 「サン・ファン・バウティスタ号 世界へ、未来へ。」

サン・ファン・バウティスタ号が未来に向かっていきおいよく出航したすがたを描きました。いつまでも見守ってくれる龍を大きく空に描きました。

〈講評〉波の描き方が上手ですね。よく表現されています。サン・ファン号は重い船ですから、この重い船がずっと海を越えていくときの力強さがよく波で表現されていると思います。「見守ってくれる龍を大きく空に描きました」ということで、サン・ファン号をいつも守っている、守り神の龍、それを上に描いた。こういうふうなところの表現・イメージ、なかなか難しいというか、できないものなんですけれども、明日香ちゃんは軽々と描きましたね。力強い絵に仕上がってます。海の描き方が素晴らしい。

最優秀賞



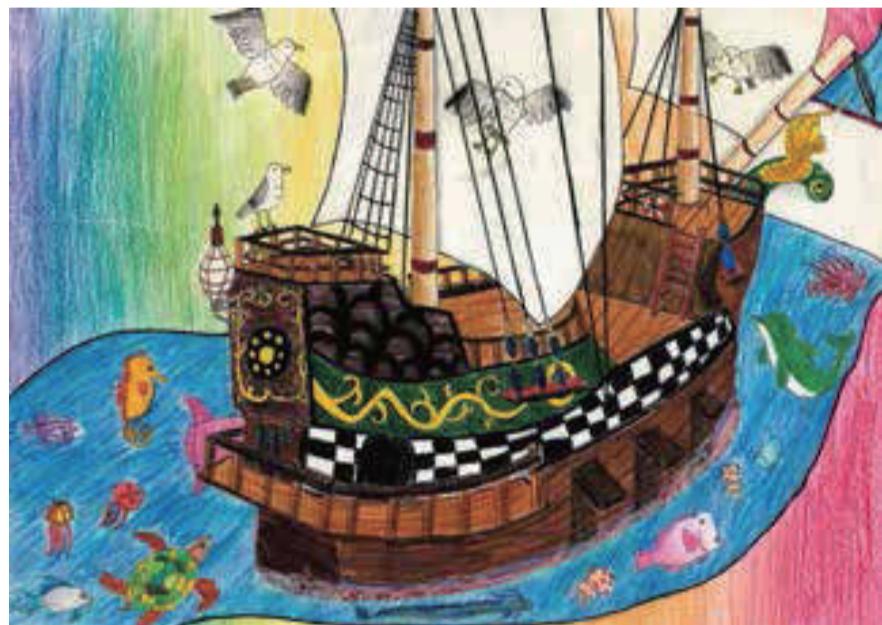
石巻市立青葉中学校 1年 阿部 瑞乙那 (あべりおな)

**「未来に継ぐ思い」**

サン・ファン・バウティスタ号は職人さんの手によって作られ、思いを乗せて大航海してきました。今の私達にその思いが受け継がれ守られていくように大切にしていきたいという思いを込めて表現しました。

〈講評〉ガラスの中に写っているサン・ファン号。よく描けています。それからガラス玉を支えている腕、これもよく見て描かれていると思います。東京タワーからローマ、上からスペインとか、続していくその風景もよく象徴的に描かれていて、サン・ファン・バウティスタ号の帆、いっぱいに風をはらんで太平洋に向かって行く、目的に向かって行く。そしてそれが私たち人類の宝のように感じられる、そんな絵に仕上がってます。色もきれいに描いてあります。見ていてほっとする絵に仕上がってます。

優秀賞



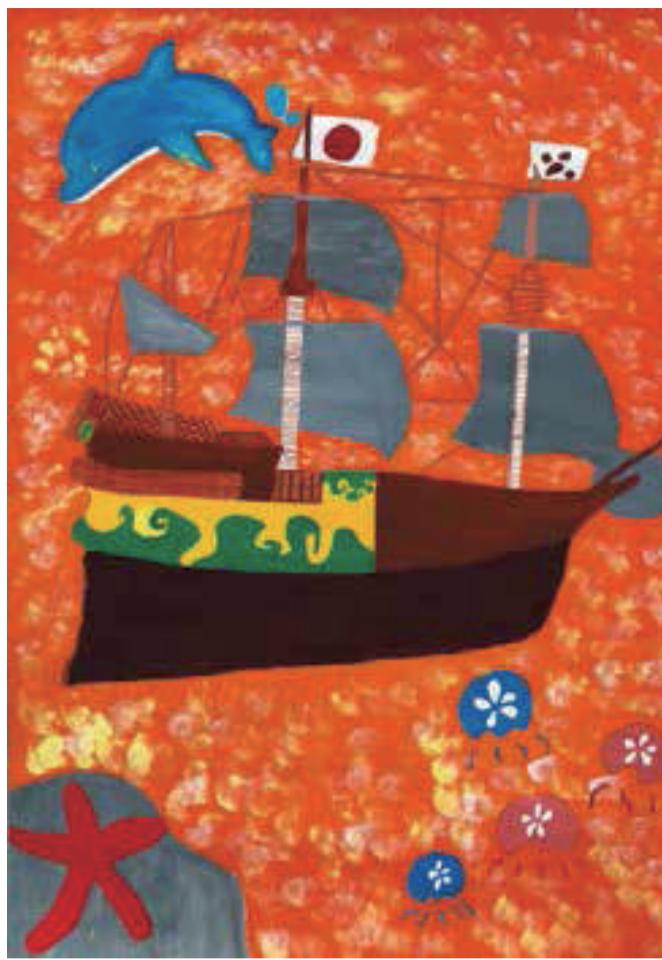
仙台市立第一中学校 1年 三浦 羽泰 (みうら うた)

**「サン・ファン号の未来への出航」**

私は、実際にサン・ファン・バウティスタ号を見て、とても感動しました。後ろの背景は、サン・ファン号が未来へと進んでいくのをイメージしてグラデーションで描きました。

〈講評〉もう楽しい楽しい!サン・ファン号が海を越えていくときには、こんないろんなドラマがあって、クラゲがいたり、海鳥とか、ウミガメとかいろんなものがいて、そこの中をずっと進んで行くんだなあ。決してさびしくなかったんじゃないかなと、と思える絵です。細部にわたって色々描きこんであるので、タツノオトシゴでもなんでもちゃんと形をつかんで描いてあります。鳥たちも飛んでいて、バックの処理也非常におもしろくデザイン的な処理もされていますね。本当におもしろい作品に仕上がってます。

審査員特別賞



石巻市立万石浦中学校 2年 遠藤 光唯 (えんどうみゆ)  
**「輝くサンファン号」**

私は、はいけいを工夫しました。夕日に見えるようにオレンジ色を使いました。スポンジで白を取り、優しくポンポンとし、キラキラしているように見るようにしました。

〈講評〉オレンジの中にサン・ファン号が浮かんでいる。下にクラゲがいたり、ヒトデがいたり。黄色で模様がずっとあります。これがきいてますね。サン・ファン号の情熱、そういったものが伝わってくる絵だと思います。色の対比の仕方、それがすごくよく計算されておもしろく仕上がっていると思います。グリーンと赤・オレンジは補色関係、お互いに反発する力をもっているんですけども、やっぱり絵っていうのは自分の心を表現する大事な手段ですから。光唯ちゃんも

これからいろんなことに出会ったとしても、自分の世界をちゃんと持つていければ道は開けてくるんじゃないかな。「輝くサンファン号」のように輝いて生きてください。

入選



石巻市立万石浦中学校 2年  
浅野 早優華 (あさの さやか)  
**「夜のサンファン号」**

作品は、夜の静かな海にサンファン号が浮かんでいるのをイメージしてかきました。サンファン号を真ん中に置いて目立たせました。工夫した所は海をグラデーションした所です。

〈講評〉紫の空にそれから青の海、そこに浮かんで進んで行くサン・ファン号、海には夜光虫。柱がなくても柱があるっていうふうな感じができますし、そして地球上の海を越えているんですけども、それだけとは思えないような不思議な絵に仕上がってます。もしかしたら宇宙船じゃないかなという感じもする絵です。波の打ち寄せる、その細かい点々が銀河のイメージを持たせるような絵に仕上がってます。特に色使いが良いですね。これは感覚的なものがあると思います。早優華ちゃん、これからまたいろんな絵を描いてみてください。

入選



石巻市立河南東中学校 1年  
岩渕 由埜 (いわぶち ゆの)  
**「帆をあげろ、いざ出航だ!」**

小学校6年生の時に見た、サンファン号をモデルにしたミュージカルがきっかけです。そのミュージカルでは、サンファン号がまだまだ海に出ていた頃も描いてました。今ではもう帆さえあげないサンファン号が帆をあげている所を描き、歴史を繋いでいきたいという思いを込めました。

〈講評〉わたしびっくりしたのは、空が非常によく描かれていることなんです。晴れた空に筆使いの中で風を表している。その風が帆を膨らませている。今からサン・ファン号は出航していくんだ!という強い心がよく表現されています。由埜ちゃんの心がよく描けている。風も感じられますね。いい絵に仕上がってます。

入選



石巻市立万石浦中学校 2年  
新沼 奈月 (にいぬま なつき)  
**「彼岸に生きるうたかたの夢」**

彼岸をさまよい、人々の夢を今でも見つけようとしている。赤や黄色のちようちんが航路を指し、永遠に彼岸花が咲き誇る世の中に行く。

〈講評〉非常にエキゾチックといいますか、恐らくサン・ファン号が帰ってくるときの風景なんじゃないかな。南国的な色使いにアジアを感じました。そしてちゃんと見るとランプの形とか、帆の張り方とか、色の使いかた、そういうものが非常に計算されて描いてあるんだね。よくここまでサン・ファン号をデフォルメ这样一个簡略した形できましたね。非常におもしろい絵に仕上がってます。これからいろんな絵描いていくでしょうけど、こういった気持ち忘れないで描いていただきたいな。おもしろいです。

# デザインマーク部門 小学生の部

最優秀賞



審査員特別賞



石巻市立渡波小学校 5年 古川 寧々 (ふるかわ ねね)

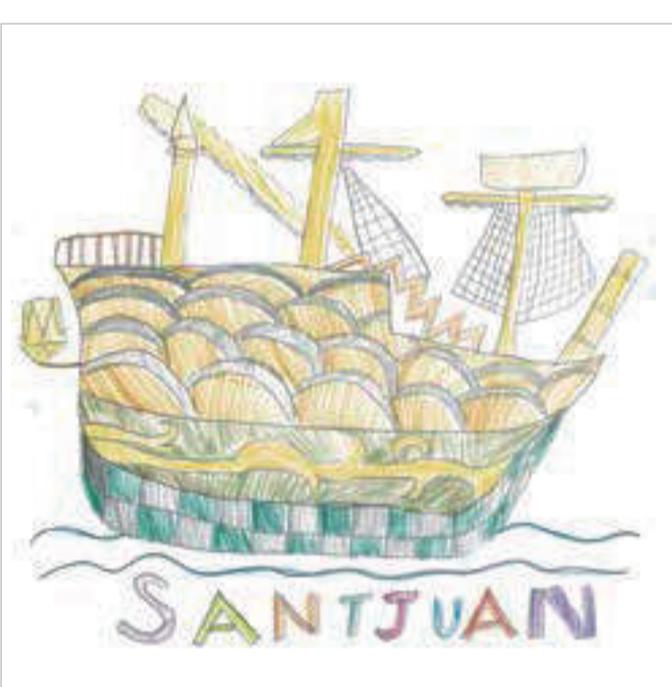
サンファンのSを、龍と船で表現。サンファン号の進む道(矢印)に輝く幸せがありますようにという願いをこめました。  
〈講評〉サン・ファン号にふれて、フィギュアヘッドの龍と、未来に向かってとんで行くイメージを、うまくまとめています。配色やかたちとしてのバランスも良く表現されていますね、感心しました。

仙台市立加茂小学校 3年 田中 基 (たなか はじめ)

船の頭についている、龍が家紋を乗せてみんなを守りながら航海をしているところをイメージしました。

〈講評〉サン・ファン号の先頭についているフィギュアヘッドの龍をモチーフにした作品で、乗り組んでいる人々と航海の安全を素直な気持ちが表現されていますね。船のように見える龍が、なんとも楽しいですね。これからが楽しみです。

優秀賞



東松島市立矢本東小学校 3年

三浦 咲来

(みうら さら)

みんなが明るい気持ちになるように、カラフルなサンファン号にしました。

〈講評〉サン・ファン号の特徴をよくとらえています。文字とのバランスもいいですね。どっしりとしたかたちが力強く表現されています。

入選



石巻市立釜小学校 4年

熊谷 綾乃 (くまがい あやの)

「未来へサン・ファン」

円の外がわにかいでいるのは、なみです。船の上にあるのが、にほんのはたです。そのとなりにはたがあります。

〈講評〉サン・ファン号をかこむように、波の連続が印象的ですね。船体がシンボル化され、外に広がるファンタジーを感じさせる作品に仕上がっています。

優秀賞



仙台市立古城小学校 6年

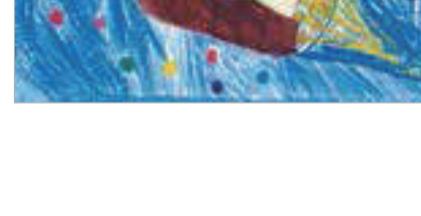
加藤 藍里

(かとう あいり)

サン・ファン・バウティスタ号をモチーフにしたデザインマークです帆が風になびいてるように見えるように描きました。船体はサン・ファン・バウティスタ号わかるようにロゴを入れました。トートバッグなどに白黒で印刷されていたらかっこいいと思いながら描きました。

〈講評〉シンプルな中に、サン・ファン号を形としてとらえたところが新鮮ですね。船体のところに文字が入って、とてもおしゃれにまとまっています。

入選



石巻市立渡波小学校 2年

阿部 有我 (あべ ゆうが)

「月に行くサン・ファン・バウティスタ号」月にむかって飛んでいくバウティスタ号をデザインしました。

〈講評〉宇宙船になったサン・ファン号。夢や希望をのせて、力強く進む様子が楽しいですね。月の黄色と空の青さが世界観を強調しています。

入選



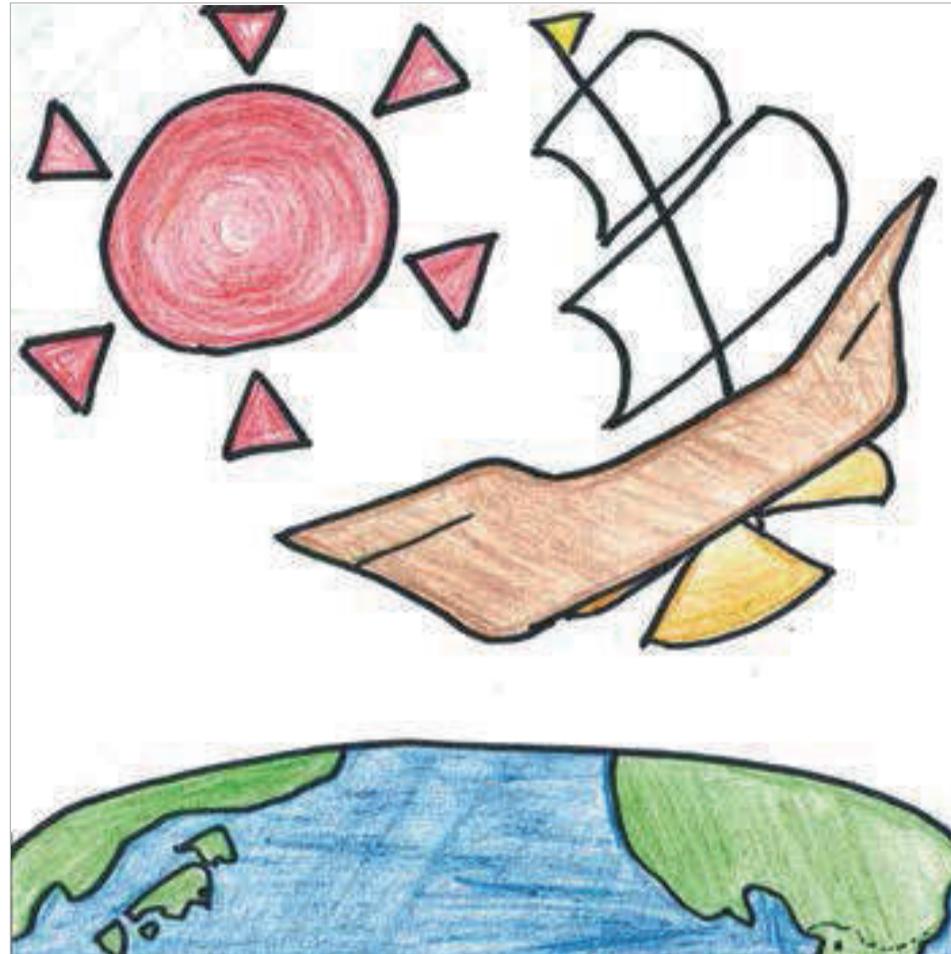
仙台市立寺岡小学校 6年

本名 千咲 (ほんな ちさき)

みんなの温かい心を表したハートの中に、永遠の宝物であるサン・ファン号を描きました。「I, LOVE」は、サン・ファン号が大好き!という思いが込められています。

〈講評〉ハートは、あたたかな心のシンボルです。人々の心に愛と勇気と希望という宝物があることを教えてくれたサン・ファン号に、大好きというメッセージが、すなおに伝わってくる作品です。

最優秀賞



石巻市立桃生中学校 1年 伊丸岡 杏摘 (いまるおか あつみ)

「サン・ファン・バウティスタ号」がさらにパワーアップして帰ってきた!!船体には“ファン”が取りつけられ、“サン”(太陽)に届かんばかりに高く飛ぶ!!“ファン”的動力は応援し、支えてくれる“ファン”的熱い想い!!さあ、行け!サン・ファン号!!

〈講評〉デザインマークの特徴は、ひと目でわかるところです。太陽と地球は大自然の代表で、その間を“ファン”という力強い応援を船体の下にとりつけた羽根にたとえたところが、アイデアとしても、おもしろいですね。

優秀賞



石巻市立北上中学校 1年

### 佐々木 啓太

(ささき けいた)

日本と外国の交流を深めてきたイメージで作りました。パソコンでがんばって作りました。

〈講評〉シンボルマークとして、とてもまとまりがいいですね。外国の人々との交流は、サン・ファン号の大重要な使命です。そのエピソードをうまく表現して、センスの良さが光ります。

入選



石巻市立門脇中学校 2年

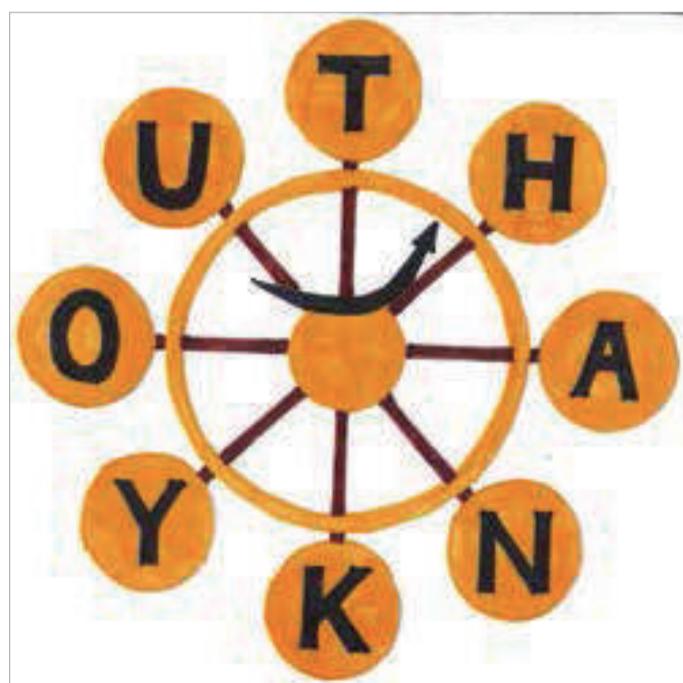
### 早坂 美穂 (はやさか みほ)

「海をこえて」

サンファン号がになっていた異国との交流を握手する手に表しました。サンファン号がうかぶ海の波に躍動感を表すように工夫しました。

〈講評〉世界の人々と手をつなぎ、明るい未来をつくっていく。これがサン・ファン号の大きな夢。丸いかたちの中での物語が伝わってきました。

優秀賞



仙台市立上杉山中学校 1年

### 菅原 泰齊

(すがわら たいせい)

「未来への舵取り」今まで、ありがとうの気持ちを込めて、デザインしました。サン・ファンは小さいころから見に来ています。伊達政宗のかぶとの三日月のマークの矢印は未来を指しています。

〈講評〉サンキューという文字をサン・ファン号の舵に配したところのアイデアがたのしいですね。伊達政宗公のかぶとの三日月が明るい未来をさしている表現が伝わってきます。

入選



仙台市立住吉台中学校 2年

### 中村 玲羅 (なかむら らいら)

「サン・ファン号未来へ!!」

どんな感じにするかとても迷いましたが、メインが船ということで、船を中心にして、波にのっているようにしました。色も目立つ色を使いました。

〈講評〉サン・ファン号に描かれている、草や波の模様をうまくデザインされてますね。中央に書かれている石巻という文字も英文でのルビも世界性を感じさせます。

入選



石巻市立桃生中学校 3年

### 伊丸岡 虎弥 (いまるおか とらや)

「大海原へサン・ファン・バウティスタ号」未知への世界へ航海した支倉常長の勇気・ストーリーを、さまざまな色で表現しました。私は、支倉常長の勇気を見ならいました。そして来年、解体することをふまえ、旅立つ感じを表現しました。

〈講評〉サン・ファン号が、大海原を進みゆくイメージ。虹の色が希望へ続いているという思いが、うまく表現されています。素直に好感がもてます。

## 船大工の曾祖父

石巻市立青葉中学校 二年

南島 濟紗

私の曾祖父は船大工でした。復元船「サン・ファン・バウティス」を手掛けた船大工さんの中の一人で、色々と当時の事を祖母から聞いているうちに、とても興味を持ちました。

私が、初めてサン・ファン・バウティスタ号を見たのは五歳の時でした。牡鹿半島が見渡せる高台に建つ「サン・ファン館」から見下ろした所に船はありました。とても立派で大きな船を見た時の衝撃は、幼かった私でも忘れることができません。

平成四年四月十七日、復元船の起工式が石巻市の中瀬にあつた「村上造船所」で行われました。およそ三八〇年前に使われた「村上造船所」で行なわれました。およそ三八〇年前に使われた建造を指揮する當時八三歳の「村上定一郎」さんが、船大工として有終の美を飾りたい」と、決意表明し建造が始まりました。建造を指揮する當時八三歳の「村上定一郎」さんが、船大工として有終の美を飾りたい」と、決意表明し建造が始まりました。當時一番苦労したのが、船大工さんを集めることでした。素晴らしい技術を持つ船大工さん達は、全員一度退職した高齢の人達ばかりでした。しかし「村上定一郎」さんの熱意に心を打たれ、船大工さんを集める事ができました。その船大工さん一人として、私の曾祖父がいました。

曾祖父の話によると、当時毎日それは楽しそうに一日の仕事内容を、夕ご飯を食べながら話してくれたそうです。曾祖父の思い入れの箇所は特に二つあって、一つ目は、獅子頭の近くにある唐草模様の部分です。二つ目は、船尾樓甲板の所にあるアーチ状のドアです。しかし、大変な面も多々あって、船内は天井が思つたより低くて、小柄な曾祖父でも、毎日「腰が痛い、腰が痛い」と言つのが日課だったそうです。また、曾祖父は、この仕事をしたからこそ、天皇・皇后両陛下に真近でお会い出来、「サン・ファン・バウティスタ号のおかげで幸せだ」とも言つていたそうです。生きていれば九十歳になっていた曾祖父に、もつと話を聞いてみたい気持ちになりました。

祝福の嵐の中で行われた竣工式から今年で二七年になります。何度も何度も襲つてきた台風や、東日本大震災の津波にも耐えた、サン・ファン・バウティスタ号。来年には、老朽化が進み修復不可能という事で、原寸の四分の一サイズのプラスチック製で船を作り直すという形になりました。しかし私はどんな形で残つても、サン・ファン・バウティスタ号が好きです。そして、復元の仕事に参加出来た船大工の曾祖父を、とても素晴らしい偉大な人だと心から思いました。

〈講評〉復元船サン・ファン・バウティスタ号に船大工として関わった曾祖父を偉大な人だと尊敬することと、その思い出を語る祖母の話を聞く渚紗さんの優しい心根が読む人に伝わって来ます。また、復元船建造時の貴重な話は、記録に残すべきものと思います。

## 支倉常長とサン・ファン号への想い

石巻市立石巻小学校 六年

黒沼 直史朗

ぼくは、歴史の本をよく読みます。歴史の本を読むととてもおもしろく、その出来事から昔の人の様子を想像することができます。

伊達政宗は、外国と貿易をしたくて、支倉常長にサン・ファン号造りを命じました。現在のような機械がない中で、手作業で造る大きな船は、ぼくが想像する以上の人力と日数がかかつたと思います。

一六一三年十月、サン・ファン号は、牡鹿半島の月浦を出港しました。支倉常長は、伊達政宗からイタリアと交流をしたいという書状を預かり、その書状を届けるため、大西洋を渡り、イタリアのローマを目指しました。

ぼくは、サン・ファン号での生活を想像してみました。とても怖い一言に尽きます。

嵐が来ると船が大きく揺れて、もしかすると、命を落としてしまうかもしれません。水や食事も十分になかったと思うし、衣服の洗濯はできたのかな、病気にならどうしよう……、

次々と不安がふくらんでいきました。今の生活と比べてかなりの不便があったと思います。支倉常長や一八〇人の乗組員の人は、たくさんの勇気と知恵があつて、いくつもの困難を乗りこえてローマまでたどり着き、本当にすごいなと思いました。

ついに、常長は、政宗から預かった書状をローマ教皇に手渡し、その命を果しました。

さらに、常長は、貿易をするためのよい返事をもらうために、何年も望みを捨てずに外国で待ち続けました。でも、よい返事は、どうももらえませんでした。常長は政宗の命を最後まで果たせなかつたと悔しい思いでいっぱいだったと思います。

月浦から出発して、七年間が経ち、常長はようやく日本に戻つてきました。日本の状況は一変し、キリスト教が禁じられていた。曾祖父に、もつと話を聞いてみたい気持ちになりました。

祝福の嵐の中で行われた竣工式から今年で二七年になります。何度も何度も襲つてきた台風や、東日本大震災の津波にも耐えた、サン・ファン・バウティスタ号。来年には、老朽化が進み修復不可能という事で、原寸の四分の一サイズのプラスチック製で船を作り直すという形になりました。しかし私はどんな形で残つても、サン・ファン・バウティスタ号が好きです。

そして、復元の仕事に参加出来た船大工の曾祖父を、とても素晴らしい偉大な人だと心から思いました。

祝福の嵐の中で行われた竣工式から今年で二七年になります。何度も何度も襲つてきた台風や、東日本大震災の津波にも耐えた、サン・ファン・バウティスタ号。来年には、老朽化が進み修復不可能という事で、原寸の四分の一サイズのプラスチック製で船を作り直すという形になりました。しかし私はどんな形で残つても、サン・ファン・バウティスタ号が好きです。

そして、復元の仕事に参加出来た船大工の曾祖父を、とても素晴らしい偉大な人だと心から思いました。

## サン・ファン号の想い出

登米市立豊里小学校 二年

三田 翔大

ぼくは、小さい時に一度、サン・ファン号を見に行つたことがあります。

その時のアルバムを見ながら、ぼくがお母さんに、「これなんの思い出?」と聞いたら、「船に乗ったんだよ。」

と言わされました。よく分かりませんでした。

ぼくは、小さすぎてわざれてしまったのです。

そこで、お母さんに、連れて行ってもらいました。

ちゅう車場に車をとめて外に出たら、強い風がぼくのフェイスシールドを直げきました。ぼくの家族に赤ちゃんがいるので、エレベーターを使用しました。

「ドクン、ドクン。」

ぼくの心ぞうが鳴りました。サン・ファン号は、もうすぐです。

「ドクン、ドクン。」

心ぞうが、また鳴りました。横から見た船は、すごくかっこよかったです。今もドキドキしています。サン・ファン号は、どう

かかったです。今もドキドキしています。この船に乗つてアフリカ大陸に行けたらしいのになあ、と思いました。ぼくは、公文でえい語を習つてるので、アフリカの人たちと友だちになつて、友だちの家にとまつてみたいです。お母さんにそう言つた。

「サン・ファン号は、メキシコと取引するために太平洋をわたつた船で、この船は、ふく元船だよ。」

と教えてもらいました。古くなつて、もうじきこわすとも教えてもらいました。ぼくは、かなしくなり、サン・ファン館のお姉さんに言つたところ、「四分の一のサイズになるけど、作り直すよ。」

と、言つていました。四分の一のサイズとは、ぼくの家のお風呂場くらいのサイズなのか、まだ学校や公文で習つていないため想ぞうできません。

さう後に、サン・ファン号の前で家ぞくでしゃしんをとりました。赤ちゃんが今のぼくくらになつたら、四分の一のサイズのサン・ファン号がかん成するのでしょうか。また家族で行きたいです。

最後に、支倉常長とサン・ファン号は、外国と交流するとい

う大きな目的は果たせなかつたけれども、まだ見知らぬ国と国を結ぶ「かけはし」として、サン・ファン号で日本の文化を運び、サン・ファン号で外国の文化を島国に持ち帰ったのではないかなど思います。だから、支倉常長やサン・ファン号が果たした役割はとても大きかつたと思います。

## サン・ファン・バウティスタ号と私の夢

東松島市立鳴瀬桜華小学校 五年

齊藤 葉菜

私がまだ六才ぐらいの時、サン・ファン・バウティスタ号を見に行つたことがあります。

その時はまだ六才ぐらいだったので、見た時、あまり深く考えず、私は「強そう、カッコイイ」と思っていました。でも五年生になった今思いだすと、もちろん六才の時のように「強そう、カッコイイ」とは思います。

ただ、そのサン・ファン・バウティスタ号を思い出して思う「強

タ号」のように強くて、カッコイイ人になりたいと思うのです。

なぜかというと、私はふたごで少し体が弱かつた上、「ぜんそく」という小さな持病を持っていて、保育園に通つていた時も本当に毎回、毎回病院に通つていて、その時、家族にめいわくと心配をかけてしまつて申しわけなかつたし、私はまだおさなくてかわいい妹がいるからです。

私は、それにたいしてこのままの自分で、家族に育ててもらうこと、妹自らのお姉ちゃんになれるのか……と考えるとつらかったです。今は、カッコイイ妹の自らのお姉ちゃんになれるのか……と考えるとつらかったです。

私はまだおさなくてかわいい妹がいるからです。

なぜかというと、私はふたごで少し体が弱かつた上、「ぜんそく」という小さな持病を持っていて、保育園に通つていて、その時、家族にめいわくと心配をかけてしまつて申しわけなかつたし、私はまだおさなくてかわいい妹がいるからです。

私は、それにたいしてこのままの自分で、家族に育ててもらうこと、妹自らのお姉ちゃんになれるのか……と考えるとつらかったです。

なぜかというと、私はふたごで少し体が弱かつた上、「ぜんそく」という小さな持病を持っていて、保育園に通つていて、その時、家族にめいわくと心配をかけてしまつて申しわけなかつたし、私はまだおさなくてかわいい妹がいるからです。

# 審査委員長総評

## [絵画部門] [デザインマーク部門]

今年は、私たちが思ってもみなかつた新型コロナウイルスの大流行で、社会のしくみや生活の変化など不安な日々を送るなか、出品された皆さんには、明るい未来と希望を託して、コンクールへ挑戦していただきました。本当にありがとうございました。心より御礼申しあげます。

本年もたくさんのすばらしい作品に出会うことができました。いちばん感じたことは、サン・ファン号のことをよく勉強し、そのうえでイメージを大きくふくらませていることです。ひとつひとつの作品にそれぞれ物語があり、みなさんも悩みながらがんばって描いたことが伝わってきました。自分の心をかたちに表すことはとてもすばらしいことです。デザインマークの募集は初めてのことでしたが、作品ひとつひとつに工夫や努力のあとがみられ、これから皆様の活躍を期待しています。明るい心を、世界は待っています。

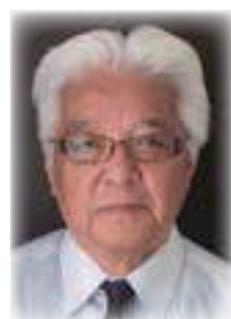


審査委員長  
**小野寺 純一** 先生

昭和22年(1947年)仙台市に生まれる。中学・高校と油絵を学び、グラフィックデザイン、コピーライター等を経て1993年仙台丸善にて個展をスタートして現在に至る。ふるさとの仙台の昭和を中心に、郷愁の画家として人気を博している。

## [作文部門]

「文を読むと、どんな人が書いたのかがわかる」ということを『文は人なり』と言います。応募は4編と少なかつたのが心残りでしたが、それぞれに思いの伝わるいい作文でした。復元船サン・ファン・バウティスタ号と自分との関わりのなかから、思い出や、それぞれの体験から得た希望や未来が描かれていて、どの作品も応募されたみなさんの言葉の力を印象づける素晴らしい作品でした。



審査委員長  
**玉田 尊英** 先生

昭和22年(1947)北海道旭川市に生まれ。詩人。出版社、広告代理店勤務を経て、制作会社を主宰。本格的詩作は1997年ころから。2015年、詩集『ゲノムの森』で宮城県芸術選奨受賞。現在、宮城県芸術協会文芸部部長。

